

TOREX IR REPORT VOL.22

第30期 報告書 2024.4.1 > 2025.3.31



CONTENTS

■ P1 トップメッセージ

**半導体市場の長期的な拡大を見据え
回復・再成長への布石を打っています。**

- P5 トレックスグループのマテリアリティ
- P7 トレックスグループの“Powerfully Initiative”
- P8 連結財務ハイライト
- P9 会社情報・株式情報
- 裏表紙 AboutトレックスVol.18
フェニテックセミコンダクターHPリニューアル



ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、日頃より当社グループ事業へのご理解とともに多大なご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

2025年3月期の市場環境は、AI関連を除く多くの分野で半導体・電子部品の在庫調整と需要の停滞が続き、低調に推移しました。当社グループ事業においても、売上高と利益が想定以上に減少し、固定資産の減損損失も発生、2期連続の赤字決算となりました。

今期(2026年3月期)は、後半から市況の回復が見込まれることから、その波を的確に捉えて業績を早期に回復させ、成長軌道への回帰を果たす考えです。なお、今期で終了する5ヵ年中期経営計画は、残念ながら目標数値に対して、未達となる見通しですが、この1年間は再成長への力を蓄えつつ、将来のあるべき姿を見据え、次期中期経営計画の策定を進めてまいります。

株主の皆様におかれましては、トレックスグループが実現する未来にご期待いただき、長期のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役 社長執行役員

木村 岳史

半導体市場の長期的な拡大を見据え 回復・再成長への布石を打っています。

Q 社長就任初年度の振り返りをお聞かせください。

A 社員とのコミュニケーションを強化。リーディングカンパニーを目指す想いを共有します。

2024年4月より代表取締役 社長執行役員に就任し、経営の舵取りを担う立場となって1年が経過しました。前期から続く厳しい市況をどう克服し、いかに業績を伸ばしていくかを考え、社員達とも話し合いを重ねていく中で、多くの社員が前向きな気持ちを持ち、会社の成長につながる意見をしっかり持っていることをあらためて実感しました。当社グループの大きな強みと言える、こうした社員達が、自分の想いや考えを周囲に発信し、行動に移すことのできる職場環境づくりが大切であると感じた次第です。

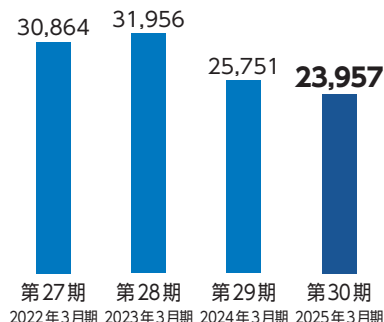
その取り組みとして、私自身がグループの各拠点を取り回り、社員と直接ディスカッションする「タウンホールミーティング」の場を設け、会社の考えを伝えるとともに、社員一人ひとりの意見や問題意識、提案に耳を傾け、経営に活かす取り組みを実施しました。また、中堅社員を中心にメンバーを集め、当社グループの10年後を考えるプロジェクト「TRX 35」を立ち上げました。トップダウンに拠らず、時代を担う社員が主体となり、長期展望にもとづく会社の「あるべき姿」を議論しています。2025年1月には、同プロジェクトの発案により、当社のビジョンを「エコでスマートな未来の実現にむけて、エレクトロニクスを半導体技術で支える『省エネ小型電源』のリーディングカンパニーになる」と決めました。

私は、この「リーディングカンパニーになる」という

第30期 業績ハイライト

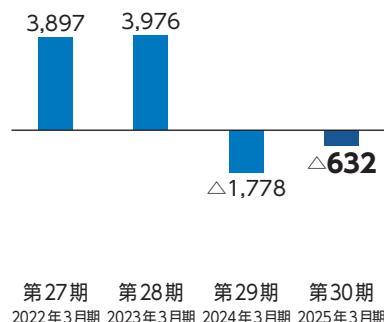
■ 売上高

(単位：百万円)



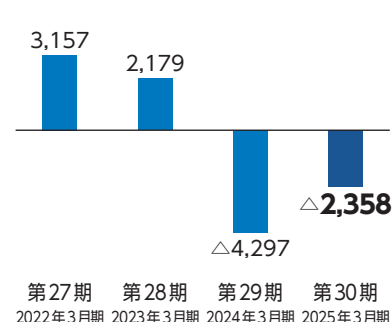
■ 営業利益

(単位：百万円)



■ 親会社株主に帰属する当期純利益

(単位：百万円)



言葉を重視しており、社内全体への浸透・共有を図っていく考えです。多くの競合他社が存在する半導体市場で、当社グループのプレゼンスを高め、オンラインの競争優位性を発揮することで、持続的成長を実現してまいります。

Q 2025年3月期の営業状況をご説明願います。

A 厳しい市況を受け、2期連続の赤字。業績回復・再成長への布石を打っています。

前期からの需要減速と在庫調整が継続し、押しなべて低調に推移した1年間でした。特に当社グループの重点分野の一つである産業機器分野の落ち込みが大きかったことから、当期の連結業績は、売上



高が期初計画を大幅に下回り、営業損益および経常損益は、前期に発生した棚卸評価損の戻りを受けて改善したものの、引き続き営業損失、経常損失となりました。親会社株主に帰属する当期純損益は、固定資産の減損損失を計上したことにより、最終的に23億58百万円の赤字となりました。

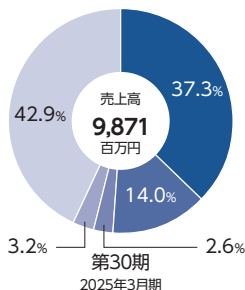
アナログ電源ICの開発・販売を行うトレックス・セミコンダクター（以下、トレックス）の営業状況は、日本国内と欧州で産業機器向けを中心に販売が減少する一方、アジアはモジュール製品向けの売上が増加、北米では産業機器向けの販売が伸長しました。全体として、第2四半期を底に流通在庫が解消されつつあり、近く注文の戻りが見込めると捉えています。

ディスクリート半導体などの受託製造を行うフェニテックセミコンダクター（以下、フェニテック）は、中国ビジネスが盛り返してきたアジアを除き、各地域で売上が減少しました。特に産業機器向けの比率が高い北米の落ち込みが大きく、第4四半期が底となりました。

こうした中でも当社グループは、各会社の年度方針にもとづく取り組みを通じて、業績回復・再成長への布石を打ってきました。トレックスは「中高耐圧品の拡充」をテーマに、新製品を計画通りにリリースしつつ、専門的な技術知識で営業活動をサポートするFAE（フィールドアプリケーションエン

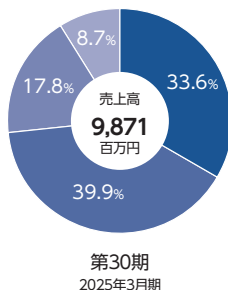
アプリケーション別売上高(参考値)

産業機器 車載機器 医療機器
ウェアラブル機器 その他機器



地域別売上高

日本 アジア 欧州
北米

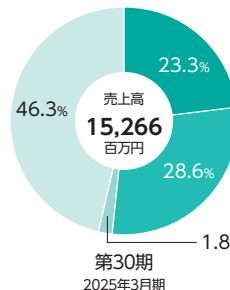


ジニア)の体制を強化し、積極展開を図りました。フェニテックは「パワーデバイスビジネスの推進」をテーマに、SiC(シリコンカーバイド)オリジナル品としてSBD(ショットキーバリアダイオード)の開発を完了し、サンプル提供および顧客評価へ進めつつ、新たにMOS FET(金属酸化膜半導体電界効果トランジスタ)の開発に注力していきました。SiCの受託生産も量産体制を築き、顧客開拓に取り組んでいます。

なお2025年2月には、半導体製品の垂直統合型メーカーであるPANJIT INTERNATIONAL INC.との業務提携を目的とした、半導体のパッケージ製造を手掛けるトレックスベトナム子会社の株式持分の一部を同社へ譲渡することを前提とする基本合意を結びました。これにより当社グループの経営資源配分を最適化し、全体的な競争力向上につなげていきます。

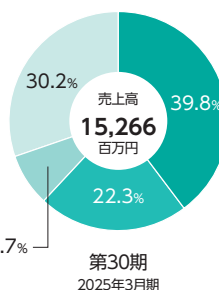
アプリケーション別売上高(参考値)

産業機器 車載機器 医療機器
その他機器



地域別売上高

日本 アジア 欧州
北米



※ トレックス・セミコンダクター向けの内部取引分を含みます。

Q

株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A

株主還元方針を維持。市場変化の波を乗り越え事業を持続的に成長させていきます。

今回の期末配当は、安定的かつ継続的な配当の実施を掲げる還元方針に則り、予定通り1株当たり28円とさせていただきました。これにより2025年3月期の年間配当額は、同28円の間配当と合わせて同56円(前期同額)となりました。

2026年3月期の連結業績は、期後半からの半導体市況の回復を想定し、増収・利益回復を見込んでいます。半導体市場は、これからも幅広い分野で需要を拡大し、長期的に成長し続けていくことは、間違いありません。当社グループは、市場変化の波を乗り越えて、事業をさらに大きく広げ、持続的に成長させてまいります。

トレックスグループの

マテリアリティ

トレックスグループはあらゆる電子機器に求められる製品を提供することで社会基盤を支え、事業に携わるすべての人々と共に繁栄することで、中長期的な企業価値向上と社会の持続的な発展に向け取り組んでいきます。こうした考えに基づき、以下のようにサステナビリティ基本方針とマテリアリティを設定しました。

サステナビリティ基本方針

トレックスグループは、「価値ある製品を通じた豊かな社会の実現と地球環境の保全」を掲げ、環境・社会に貢献するという考えを経営の中心に据え、共存・共栄の精神で、すべてのステークホルダーとともにサステナビリティ推進に取り組んでまいります。

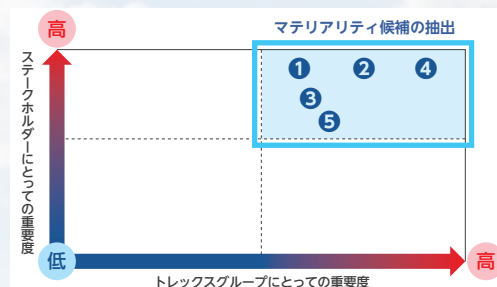
マテリアリティ

マテリアリティ	基本方針
社会課題解決に向けた高付加価値製品の提供	トレックスグループの製品は、世界中のあらゆる分野で使用される電子機器に広く採用されています。持続可能な社会の実現に向け、高付加価値な半導体製品を提供することで、社会課題の解決と事業の成長の両立を目指しています。
多様で個性ある人財が活躍できる環境の整備	トレックスグループの強みは、長年にわたる半導体事業で培った技術力と、市場のニーズを的確に捉える力です。この力を次世代に継承し、急速に変化する時代に対応できる専門性と独創性を備えた組織力を構築するため、人財の確保と育成を推進していきます。また、多様な個性と専門性を活かし、従業員が自発的に活躍できる職場環境の整備にも注力していきます。
地球環境保全に向けた取組の推進	トレックスグループは、気候変動を含む環境問題を、持続可能な社会の実現に向けた重要な課題と捉えています。バリューチェーンを通じて、環境負荷を軽減する半導体製品を提供することで、省エネや省資源化に貢献し、環境保全に取り組んでいきます。
すべてのステークホルダーのための経営基盤の確立	トレックスグループは、事業に携わるすべてのステークホルダーが共に繁栄することを目指しています。グループの継続的な事業成長を通じて、社会に貢献し、利益の創出を実現していきます。中長期的な企業価値の向上に向け、堅実な経営基盤を維持し、リスクマネジメントを推進することで、さらなる成長を追求していきます。

マテリアリティ特定プロセス

中長期的なマクロ環境の変化を踏まえたサステナビリティ経営を推進していくため、以下のプロセスを経て、トレックスグループにとっての重要課題(マテリアリティ)を特定し、当社の活動へ反映しています。また、これらのマテリアリティは、当社取締役会での議論を経て承認されました。必要であることに加え、成長の基盤として中長期の成長シナリオを描き、挑戦するための経営基盤の確立も重要です。

- STEP 01** **メガトレンドやESG課題候補のリストアップ**
メガトレンドに対する影響度を議論
影響度の大きい項目を「ESG課題検討リスト」に追加しマテリアリティ候補として検討
- STEP 02** **ESG課題検討リストの作成**
GRIスタンダード、SASBIに加え、メガトレンドシートにて影響度を「大」とした項目を踏まえ、マテリアリティ候補となる「ESG課題検討リスト」を作成
- STEP 03** **重要度・影響度判定の実施と結果のマッピング**
「ESG課題検討リスト」から、ステークホルダー及び自社の課題をマッピング
マテリアリティ候補とすべき課題を抽出
- STEP 04** **マテリアリティ候補の抽出**
マッピング上での各課題の散布度合を踏まえ、マテリアリティ候補とする基準を設定し、マテリアリティ案を抽出
- STEP 05** **マテリアリティの承認**
サステナビリティ委員会での議論を行いマテリアリティを特定、取締役会での審議、承認

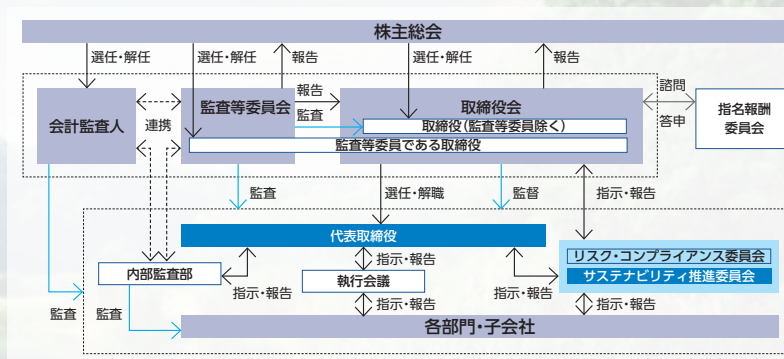


- ① 温室効果ガスの削減
- ② 省エネの取り組み加速
- ③ 人材育成の強化
- ④ 半導体市場の拡大
- ⑤ ガバナンス体制強化

トレックスグループの サステナビリティ推進体制

サステナビリティ推進委員会は、取締役会の監督の下に組織し、サステナビリティに関する当社グループの課題および取組みについての議論・審議を行うとともに、当該内容を取締役会に年2回報告しています。

組織横断的に取り組むため各部門の委員で構成し、オブザーバーとして子会社の取締役等も招聘して活動を行っています。



トレックスグループの

“Powerfully Initiative”

トレックスグループは企業理念に基づき、製品や事業を通じて、環境・社会への貢献を実現するという考えを経営の中心に据え、ステークホルダーとともにサステナビリティ推進に取り組んでいます。2025年1月には中長期的な企業価値向上と社会の持続的な発展に向け、マテリアリティを特定しました。事業活動を通じて重要課題解決に向けた取り組みの一部を紹介いたします。

マテリアリティ1

TOREX

社会課題解決に向けた高付加価値製品の提供

小型・低消費電力による高効率な新製品の開発

トレックスでは、強みである省電力・小型・低損失な製品開発力を生かし、高付加価値な半導体製品を提供し続けることで、社会課題の解決と事業の成長の両立を目指してまいります。



- 小型部品を採用し、省面積かつ軽負荷高効率
- 機器の正常な動作を確保し、故障や損傷を防ぐ電源シーケンスの作成が容易
- 電圧低下時も出力電圧を高く維持し、システムダウン抑制やシステム維持に貢献

小型/低消費により機器の小型化/発熱対策に対応し、施設などのセンサやセキュリティ機器、白物家電など成長が続く空調機市場に寄与

マテリアリティ4

Phenitex

For Further Growth Together

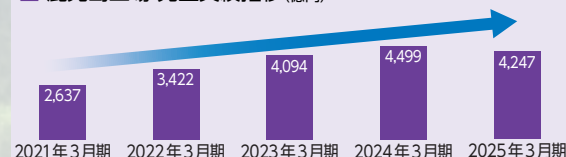
すべてのステークホルダーのための経営基盤の確立

生産性能力増強に向けた鹿児島工場の取り組み

フェニテックでは、ファウンドリ事業を通じすべてのステークホルダーから信頼されることにより持続的成長を目指します、というビジョンのもと生産能力増強にも取り組んでいます。

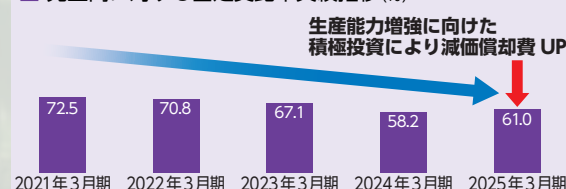
- 鹿児島工場5号館3階をクリーンルーム化
- 組織体制の改善
- 消耗品、修繕、消費電力など製造固定費削減
- 労働生産性向上によるCT（サイクルタイム）短縮

■ 鹿児島工場 売上実績推移 (億円)



25.3期 2万枚/月 安定した生産体制へ

■ 売上高に対する固定費比率実績推移 (%)



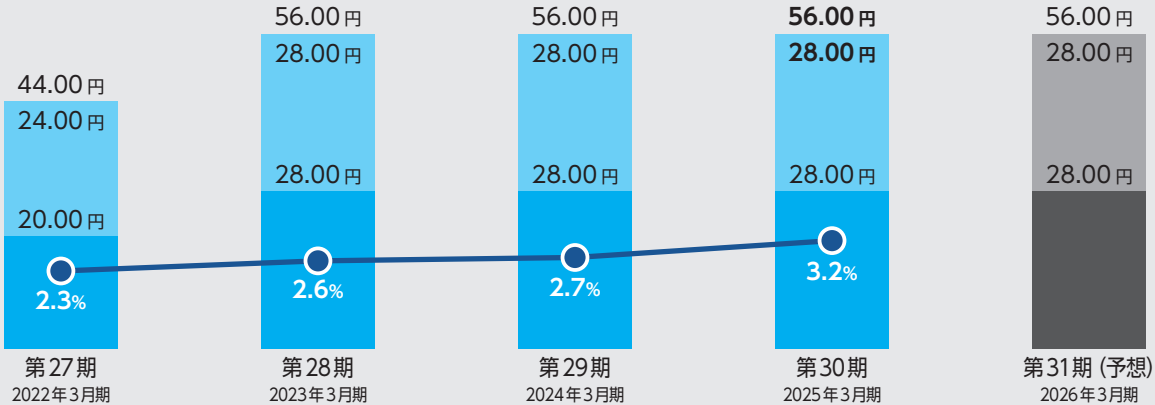
製造コスト削減により固定比率低下

連結財務ハイライト

		第27期	第28期	第29期	第30期
		2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期
売上高	(千円)	30,864,245	31,956,887	25,751,982	23,957,700
営業利益	(千円)	3,897,675	3,976,219	△1,778,180	△632,166
売上高営業利益率	(%)	12.6	12.4	△6.9	△2.6
経常利益	(千円)	4,124,574	3,981,298	△2,452,114	△820,277
親会社株主に帰属する当期純利益	(千円)	3,157,348	2,179,807	△4,297,717	△2,358,567
総資産額	(千円)	34,770,317	37,048,739	36,636,141	33,607,998
純資産額	(千円)	22,729,277	24,593,934	20,552,904	17,400,632
自己資本比率	(%)	65.4	66.4	56.1	51.8
営業活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	1,753,056	1,294,785	1,927,295	3,359,567
投資活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	△1,608,519	△4,567,187	△4,552,344	△3,755,532
財務活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	△2,056,414	1,510,217	2,705,397	442,357
現金及び現金同等物の期末残高	(千円)	10,163,070	8,515,480	9,140,420	9,231,881
1株当たり当期純利益金額	(円)	288.60	198.69	△390.73	△214.62
1株当たり純資産額	(円)	2,077.66	2,236.24	1,868.50	1,616.67

配当金の推移

■ 中間配当 ■ 期末配当 ■ 配当予想 ● 株主資本配当率 (DOE)



会社概要

社 名 トレックス・セミコンダクター株式会社
所 在 地 東京都中央区新川1-24-1
DAIHO ANNEX 3F
設 立 平成7年(1995年)3月
資 本 金 29億6,793万円
事 業 内 容 1. 半導体デバイスの開発、設計、製造
2. 半導体デバイスの販売
従 業 員 数 連結／1,034名 個別／185名

役員一覧 (2025年6月25日現在)

取締役 (監査等委員である取締役を除く)

代表取締役 会長執行役員	しば 芝	みや 宮	こう 孝	じ 司
代表取締役 社長執行役員	き 木	むら 村	たけ 岳	し 史
取締役 執行役員	みや 宮	た 田	たか 敬	し 史
取締役 執行役員	さくら 櫻	い 井	しげ 茂	き 樹
取締役 執行役員	まえ 前	がわ 川	たかし 貴	
取締役 執行役員	やま 山	もと 本	とも 智	はる 晴
取締役	いし 石	い 井	ひろ 弘	ゆき 幸

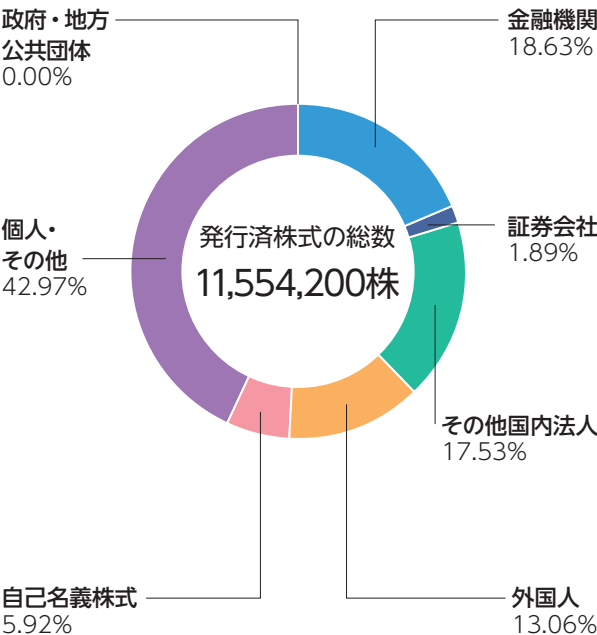
監査等委員である取締役

常勤監査等委員 (社外)	いけ 池	だ 田	こう 耕	たろう 太郎
監査等委員 (社外)	かわ 川	また 俣	なお 尚	たか 高
監査等委員 (社外)	ひろ 廣	せ 瀬	ゆ 由	み 美
監査等委員 (社外)	その 園	だ 田	さとし 聡	

株式の状況

発行可能株式総数..... 36,673,600 株
発行済株式の総数..... 11,554,200 株
株主数 4,710 名

所有者別株式分布



大株主（上位10名）

株主名	所有株式数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社 (信託口)	1,219	11.22
PERSHING-DIV. OF DLJ SECS. CORP.	1,175	10.82
藤阪 知之	483	4.45
株式会社中国銀行	472	4.34
アルス株式会社	452	4.16
吉備興業株式会社	397	3.66
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	352	3.24
尾崎 貴紀	321	2.96
芝宮 孝司	297	2.74
尾崎 公子	205	1.89

※1 当社は、自己株式を683,733株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。

※2 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎事業年度終了後3ヵ月以内
株主確定基準日	3月31日
期末配当金 株主確定日	3月31日
中間配当金 株主確定日	9月30日
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先・ 連絡先	(郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 (連絡先) 0120-782-031
公告方法	<p>当社の公告方法は、電子公告としております。</p> <p>ただし事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載しております。</p> <p>当社の公告掲載URLは次のとおりです。</p> <p>https://www.torex.co.jp/</p>

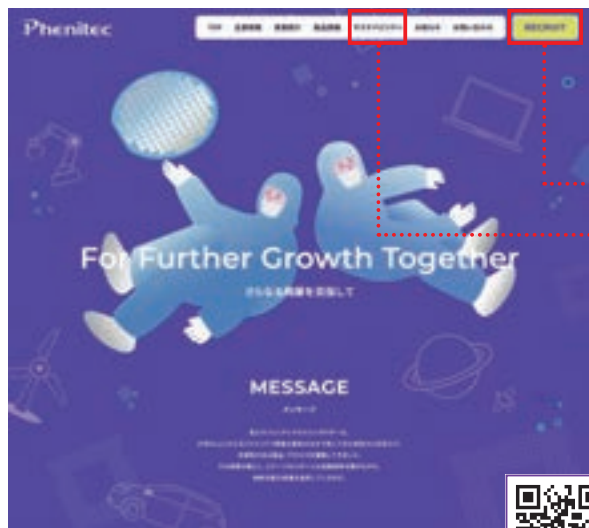
About トレックス

アバウト・トレックス Vol.18

TOREXにまつわる色々なことをご紹介します。

フェニテックセミコンダクター

HPリニューアル

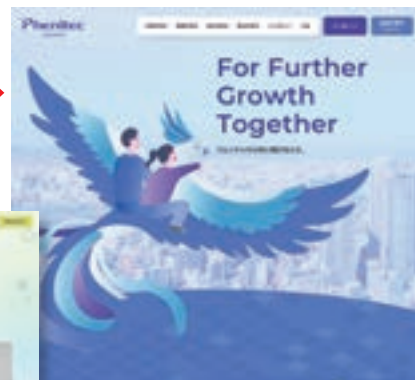


<https://phenitec.co.jp>

フェニテック



フェニテックセミコンダクターのHPをリニューアルいたしました。今後もサービス改善、コンテンツの充実に努めてまいります。



<https://www.torex.co.jp/>

トレックス



当社の最新情報はWEBサイトでご覧いただけます。



トレックスのサステナビリティ



投資家の皆さまへ

トレックス・セミコンダクター株式会社

〒104-0033 東京都中央区新川1-24-1

DAIHO ANNEX 3F

TEL (03)6222-2851

UD FONT

見やすく読みまちがえにくいユニバーサル
デザインフォントを採用しています。



環境に配慮した植物油
インキを使用しています。

